

日本海周辺の基盤地質構造

Basement geologic structures around the Japan Sea

大藤 茂 [1]; 山北 聡 [2]

Shigeru Otoh[1]; Satoshi Yamakita[2]

[1] 富山大・院・理工学; [2] 宮崎大・教育文化

[1] Grad. School, Sci. & Eng., Univ. Toyama; [2] Fac. Edu. & Cul., Miyazaki Univ.

以下の3点を考慮に入れ、日本海拡大の総合的復元モデルを作成した：(1) 日本海拡大時の島弧内変形量の見積り、(2) 古地磁気データのレビュー、および(3) 今日海底地形。その結果、西南日本弧および東北日本弧の大部分を日本海主部に収める復元モデルが完成した。完成した復元図によると、日本の白亜紀左横すべり断層群が、北北東方向のロシア沿海州へ連続する。すなわち、西南日本の中央構造線が、東北日本の畑川構造線を経由して、沿海州のシホテアリン中央断層へ連続する。また、上記断層から分岐する沿海州のパルチザンスク断層は、東北日本の棚倉構造線の北北東延長であることもわかる。日本の先後期白亜紀地質体の多くは、沿海州へ直接的に連続する。特に丹波 - 美濃 - 足尾帯と南部秩父 - 北部北上帯の2列あるジュラ紀（一部後期三畳紀および最前期白亜紀）付加体は、それぞれ沿海州のサマルカ帯とタウ八帯に延長する。一方、日本列島と西隣の朝鮮半島と地質構造は、日本海拡大前には平行に近く、地質要素の連続性があまり顕著ではない。現在の日本海南東縁の海岸線は、東北日本では基盤地質構造に大きく斜交する一方、西南日本では基盤地質構造にほぼ平行であるといえる。